

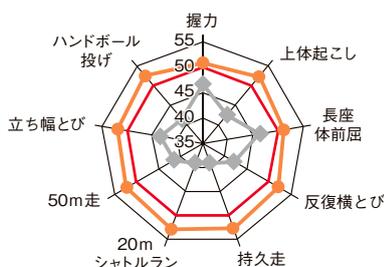
運動やスポーツへの意識の高い児童生徒・学校の特徴

「生涯にわたって運動に親しむ」ために、「運動の楽しさや喜びを味わうこと」は、体育・保健体育のねらいの一つになっている。

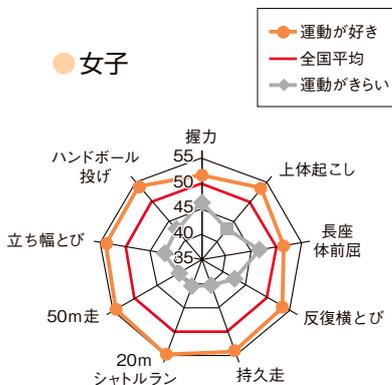
ここでは、運動やスポーツへの肯定的な意識や、体力・運動習慣が定着している児童生徒の実態から、運動やスポーツへの意識を高めるための児童生徒・学校の取組の特徴を明らかにし、改善のヒントを探った。

中学校

男子



女子



中学校において、運動やスポーツが「好き」と回答した群と「嫌い」と回答した群の各種目の調査結果を、T得点を用いて平均値を50として示した。男女ともに全種目において全国平均に対して、運動やスポーツが「好き」と回答した群が上回り、「嫌い」と回答した群が下回った。※T得点については104ページ参照。

■ 「運動やスポーツが好き」別 実技の状況 (T得点)

テーマ1では、「運動やスポーツへの意識」に着目した。

児童生徒については、体育・保健体育の「授業は楽しい」と回答した児童生徒の特徴を中心に分析した。

また、学校については、「授業は楽しい」と回答した児童生徒の割合が高かった学校（上位10%）の調査結果を全国平均と比較した。

分析結果から、児童生徒が「楽しい」と感じている体育・保健体育の授業の特徴がみえてくる。

一方、「授業は楽しい」と回答した児童生徒の割合が高い学校は、「苦手意識をもたせない」ことなどを指導上特に大切にし、努力を要する児童生徒に対しては、一人一人の運動能力や技能の実態に応じた取組を行

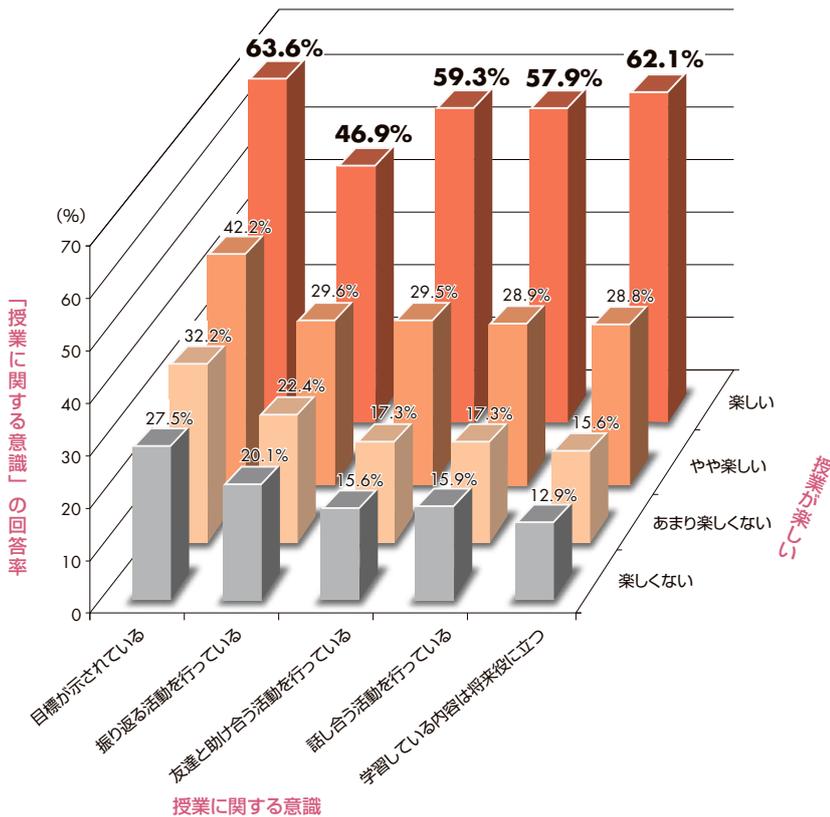
うことに積極的な傾向がうかがえた。

事例では、児童生徒の意識や運動意欲を高める環境づくりを行っている学校や、自主性を育む体育・保健体育の学習の充実を目指す学校の取組を紹介する。

「テーマ1」
意識

■保健体育の「授業の楽しさ」についての回答別
「授業に関する意識」

中学校
●男子



保健体育の授業の楽しさ

有効回答数	割合 (%)
楽しい	262,739
やや楽しい	205,205
あまり楽しくない	45,284
楽しくない	17,983

中学校男子で、保健体育の授業が「楽しい」「やや楽しい」「あまり楽しくない」「楽しくない」と回答した群別に、保健体育の授業に関する意識についての回答状況を比較した。

縦軸は、「授業に関する意識」の回答率を示す。

「保健体育の授業は楽しいですか」という質問に対して、中学校男子では「楽しい」と回答した生徒ほど、ふだんの授業の始めに目標が示されている、授業の最後に学んだことを振り返る活動を行っている、友達と助け合ったり、話し合ったりするような活動を行っていると感じている割合が高く、学習している内容は将来に役に立つと思っている割合も高い。小学校男女、中学校女子でも同様の傾向であった。

体育・保健体育授業を「楽しい」と感じている児童生徒の特徴

体育・保健体育授業の「楽しさ」がもたらすもの

小・中学校学習指導要領解説には、それぞれ発達の段階に応じて表現に違いはあるものの、改訂により教科の目標として明確となった「生涯にわたって運動に親しむ資質や能力」の育成を踏まえ、「運動の楽しさや喜びを味わうこと」が体育・保健体育の重要なねらいであることが示されている。

本年度の調査結果から、体育・保健体育の「授業は楽しい」と回答した児童生徒は、運動やスポーツに対する「好き」「大切」「卒業後も自主的に運動したい」といった肯定的

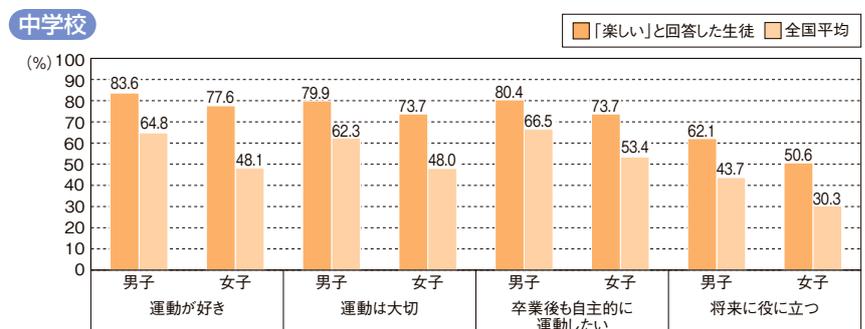
な意識が全国平均より高いことがわかった(図1-1)。児童生徒が運動の楽しさや、その種目の持つ特性や魅力により多く触れられるよう、日々の授業の充実を図ることの大切さを示す結果と考えられる。

また、「授業は楽しい」と回答した児童生徒は、体育・保健体育の授

業で学習している内容は、「将来に役に立つ」と回答した割合も全国平均より高かった。

ここでは、誰もが等しく運動に触れる重要な機会である体育・保健体育の授業に対して、「楽しい」と感じている児童生徒について、児童生徒質問紙からその特徴を探った。

【図1-1】「授業は楽しい」と回答した生徒の運動に対する意識



授業で感じていること

「体育・保健体育の授業であなたはどのように感じていますか」という質問に対して、体育・保健体育の「授業は楽しい」と回答した児童生徒は、「技や動きができるようになる」「たくさん動く」「授業で学んだことを、授業以外の時にも行ってみようと思う」「仲間と協力して課題を解決することがある」「練習やゲームで自ら工夫できる」などの各項目

で、「そう思う」と回答した割合が全国平均より高かった(図1-2)。

授業での達成感や、仲間と協力したり自ら工夫しようとしたりする意識が高いことがみとれる。

また、「授業で学んだことを、授業以外の時にも行ってみよう」と思える授業づくりは、生涯を通じて運動を日常生活の中に積極的に取り入れ、生活の一部とするためにも、大切な視点といえる。

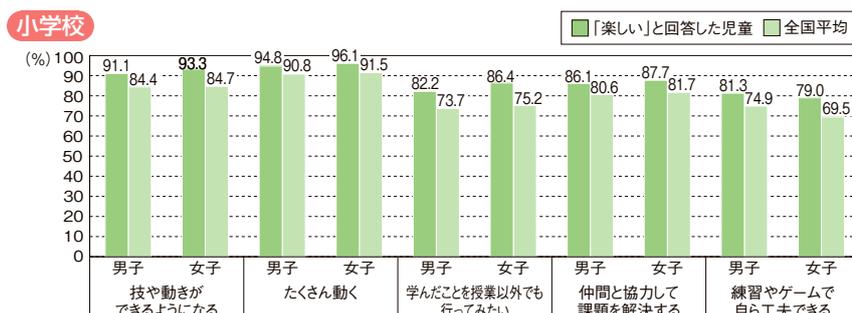
できなかったことが「できるようになる」楽しさを感じる

児童生徒が「できなかったことができるようになる」楽しさを感じ、その種目の特性や魅力に触れる喜びを味わうことは、運動やスポーツの実施への好循環へとつながっていくと考えられる。

「授業は楽しい」と回答した児童生徒は、「できるようになった」きっかけとして、「授業中に先生に個別にコツやポイントを教えてもらった」「友達に教えてもらった」と回答した割合が全国平均より高かった(図1-3)。

教員が児童生徒の課題を的確に把握し、体の動かし方や技能のポイントをイメージできるような言葉がけの工夫をしたり、効果的な練習方法のヒントを与えたり、友達同士で教え

【図1-2】「授業は楽しい」と回答した児童が体育の授業で感じていること

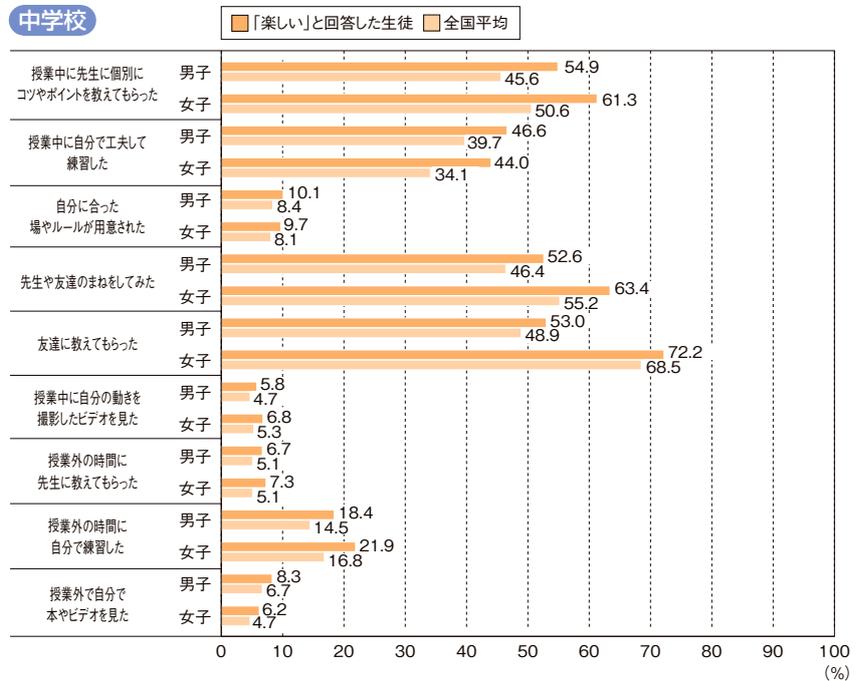


合い・学び合いを行ったりすることの大切さを示した結果と考えられる。

また、「授業中に自分で工夫して練習した」「自分に合った場やルールが用意された」「先生や友達のまねをしてみた」「授業中に自分の動きを撮影したビデオを見た」と回答した割合も全国平均より高く、課題解決へ向けて主体的に授業へ取り組む工夫やICTの活用が成果を上げていることがうかがわれる。

さらに、「授業は楽しい」と回答した児童生徒は、授業外の時間に「先生に教えてもらった」「自分で練習した」と回答した割合も全国平均より高かった。業間や休み時間を利用した個別指導の取組や課題解決への動機付けが図られていると推察される。

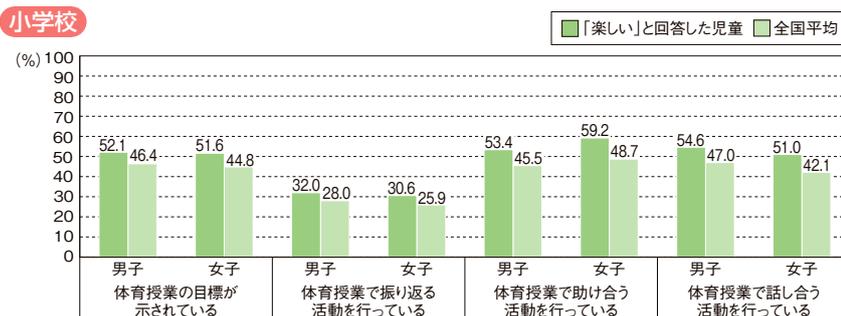
【図1-3】「授業は楽しい」と回答した生徒が授業でできるようになったきっかけ



目標をもって友達と活動している

体育・保健体育の「授業は楽しい」と回答した児童生徒は、ふだんの体育・保健体育の授業で、「授業の始めに授業の目標（目当て・ねらい）が示されている」「授業の最後に今日学んだ内容を振り返る活動を行っている」と回答した割合が全国平均より高かった（図1-4）。

【図1-4】「授業は楽しい」と回答した児童の授業の実態についての認識



また、授業で「友達と助け合ったり、役割を果たすような活動を行っている」「友達同士やチームの中で話し合う活動を行っている」と回答した割合が全国平均より高かった。

授業の始めでの目標の提示は、その時間の見通しや学習内容への期待感を与え、振り返りは、次なる課題を明確にし、達成度の確認にも役立つ。

また、仲間と助け合ったり教え

合ったり、自己の役割を果たすような活動を促すことは、仲間との協力による連帯感や授業へ自主的に取り組む意欲を高めるのに有効である。

運動が苦手な児童生徒の意識

本年度の総合評価Eの児童生徒の意識をみると、「運動が好き」と回答した割合は、小学校では男子が33.8%、女子が21.0%、中学校では男子が23.1%、女子が9.6%であった。

総合評価Eの児童生徒も、少なからず運動やスポーツを「好き」と感じており、特に小学校児童でその傾向が強い。そこで、児童生徒の「好き」を継続させ、体力・運動能力の向上につなげる取組を期待したい。